

# 大阪・鬼虎川遺跡

きとろがわ

1 所在地 大阪府東大阪市西石切町五丁目・同七丁目・弥生

町・新町・宝町

2 調査期間 第五三次調査 二〇〇二年(平14) 四月～二月

3 発掘機関 東大阪市教育委員会

4 調査担当者 若松博恵・吉田綾子・松田留美・福瀬哲生

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 旧石器時代～江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪東北部)

鬼虎川遺跡は、生駒山地西麓部に発達した沖積扇状地の扇端部から河内平野の沖積低地に立地し、南北約一一五〇m東西約六五〇mの範囲に広がる。この地域における人間活動の痕跡は後期旧石器時代に遡り、弥生時代前期末から中期にかけて、河内湖の東縁辺における中河内東部の拠点集落となる。

近年の調査では、弥生時代の遺構面や遺物包含層の上部に、古代から中世・近世の遺構や遺物が広がることが確認されている。第五次調査では、溝状遺構から一五世紀から一六世紀と推定される板塔婆と、上端に切り込みをもつ木簡が出土した(本誌第二四号)。

今回の第五三次調査は、国道一七〇号西石切立体交差事業に伴う調査で、弥生時代中期のヒスイ製獣形勾玉が出土した第四四次調査区の反対側(東側)にあたる。調査は、工事工程による工区名称に準拠し、北側を六工区、南側を七工区と呼称して進められた。

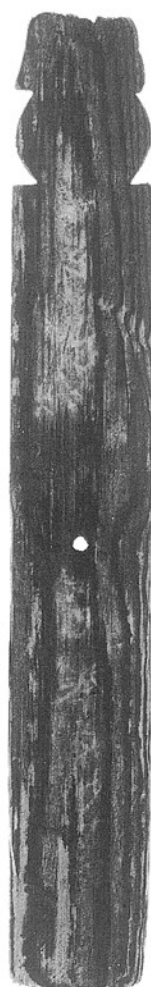
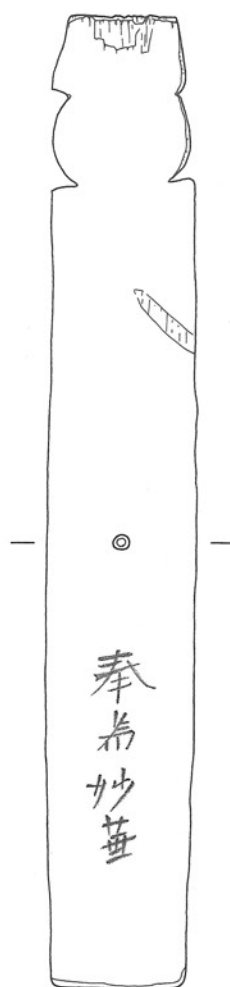
木簡(1)は、六工区南部の室町時代道路南側溝から出土した。道路は盛土工法で構築されたもので、東西方向に走り、断面は台形状を呈する。上部幅一一二m、下部幅一・五～二・五m以上を測る。道路南面は高く遺存し、溝の最下面まで〇・六mを超える。木簡は南側溝の最下部に堆積した砂層から検出された。木簡(2)は、七工区の室町時代の溝の堆積砂層から出土した。西肩は不明ながら、溝は幅一～二m以上、深さ〇・一～〇・三mで、東から北へ延びる。

8 木簡の积文・内容

六工区道路南側溝

(1) ・ ・ 仏

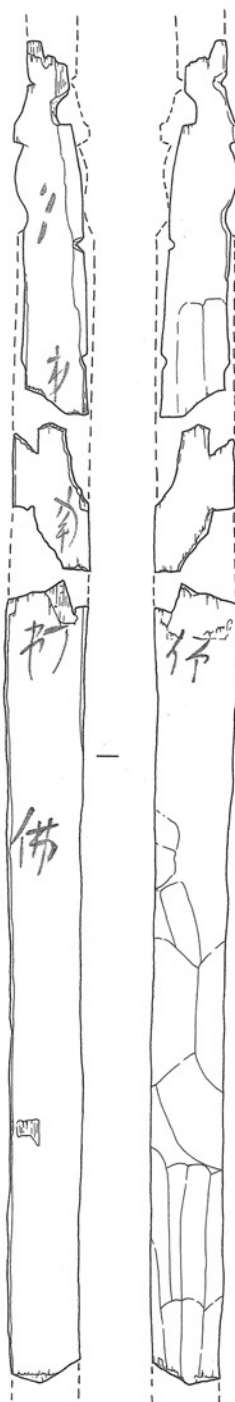
・ ・ (梵字) 南□阿□□仏 (173+68+374)×37×8 061



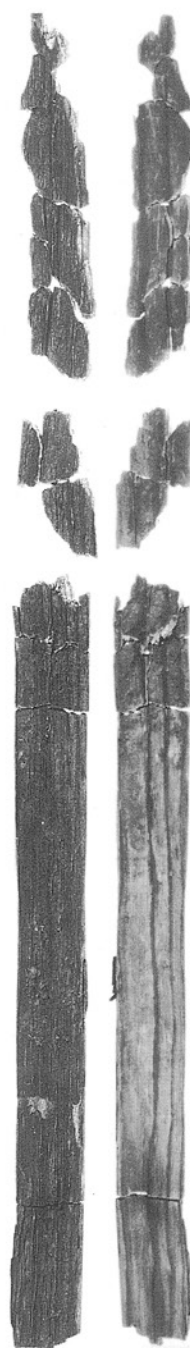
(2)



(2)



(1)



(1)

## 七工区溝

(2) 「>奉為妙」<sup>〔運カ〕</sup>

303×14×6 061

(1)は五輪塔形の頭部をもつ六〇cmを超える板塔婆である。三片に分かれ直接は接続しない。また、上端と下端は欠損する。側溝内での滞水期間が長期に及んだためか、墨痕の遺存状態は劣悪である。裏面には南無阿弥陀佛の名号が記されていたと考えられ、推定の域を出ないが「仏」字の下部には供養者名などが続いたものと考えられる。

(2)は五輪塔形の小型板塔婆である。五輪頭部の上端は欠損。板状部のほぼ中央に径四mmの円孔が穿たれる。七本塔婆の横木ないし塔婆堂に直に打ち付けるための円孔であろう。「妙蓮の奉為に」と読め、妙蓮は被供養者の女性の法名と思われる。反対面にも名号が記されていたものと推定される。

なお、板塔婆の出土遺構とその状況については、調査担当者の若松博恵氏の教示を得た。

## 9 関係文献

東大阪市教育委員会『鬼虎川遺跡第五三次発掘調査報告』(二〇〇四年刊行予定)

(菅原章太)

大阪・中野遺跡<sup>なかの</sup>

- 1 所在地 大阪府四條畷市中野本町
- 2 調査期間 一九九一年(平3)十一月～一九九二年一月
- 3 発掘機関 四條畷市教育委員会
- 4 調査担当者 村上 始
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪東北部)

中野遺跡は、生駒山系から西へ派生する段丘の西端から平野部にかけて所在し、東西八〇〇m南北五〇〇mの範囲が古墳時代中期から室町時代までの集落跡として周知されている。今回の調査は、四條畷市役所東別館新築工事に伴うもので、調査面積は七四八㎡である。検出した遺構は、掘立柱建物・土坑・溝・井戸二基などである。木簡は、そのうち一基の井戸内に設置され